

このページは読み上げ機能に一部対応していない場合があります。
ご不明な点につきましては、直接学校までお問い合わせください。

令和3年度 特別の教育課程の実施状況等について

千葉県八千代市		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
八千代市立南高津小学校	八千代市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の公表	学校関係者評価結果の公表
八千代市立南高津小学校	https://www.yachiyo.ed.jp/enantaka/gaiyo/hyouka/	

2. 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

これからの時代において必須となるグローバルな視野を持った人材を育成するため、ESD教育を推進する。その際、SDGsの17の目標を教育活動に組み入れ教育課程を編成していく。そのため、第1・2学年は、国語11時間（2学年は10時間）、生活科10時間、音楽13時間（2学年は15時間）を「言語活動科」に充てる。

(2) 学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本校は、創立47年目を迎え、公団アパートおよび住宅地の東洋会、ローズタウンを学区とする児童数245名、11学級の小学校である。地域住民や保護者の学校教育に対する関心は高く、児童の学習意欲も高い。

児童が「生きる力」を身につけ、これからのグローバルな社会を生き抜いていくためには、高いコミュニケーション能力や異文化理解能力が求められる。このような状況を踏まえると、「言語活動科」を第1学年から実施し、コミュニケーションや異文化への児童の興味・関心、能力を高めていくことが求められていると捉えている。

また、このことは本校の教育において重点としている「人間関係づくり、コミュニケーション能力育成」のために大変効果的であると考えている。

実施に当たり、保護者会や地域の自治会の組織を活用して、地域住民から外国語（英語）活動を支援するボランティアを募り、外国語（英語）活動をはじめとして、校内の環境整備や児童の安全確保、学校行事の運営支援等、学校と家庭、地域が一体となって地域ぐるみで児童を育てる体制を整えていく。

また、本市はアメリカ合衆国タイラー市と姉妹都市であり、タイ国首都バンコクとは子ども親善大使を相互派遣している。外国語活動（言語活動科）の充実を図ることは、地域や学校の特色を生かして、さまざまな面から児童の能力を高めることにつながり、「生きる力」の育成につながると考えられる。

(3) 特例の適用開始日

平成24年4月1日 平成30年4月1日変更

(4) 取組の期間

令和3年4月1日から令和5年3月31日

3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

(1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- ・ 計画通り実施できている
- ・ 一部、計画通り実施できていない
- ・ ほとんど計画通り実施できていない

(2) 実施状況に関する特記事項

特記事項なし

(3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- ・ 実施している
- ・ 実施していない

<特記事項>

学校ホームページ，学校だより，学級懇談会，学校評議員会などを利用して，保護者及び地域住民へ取組の状況を発信している。

4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

本校では、「未来を拓く，たくましく，心豊かな子どもの育成 ～瞳輝く，笑顔あふれる学校～」を学校目標として，目指す子供の姿として「物事に主体的に取り組み，仲間と共に課題を解決していく資質・能力を身に付けた子」と位置づけている。国語科，算数科を要として，教育活動全体を通して，わかりやすく相手に伝える力を育成し，外国語（言語活動科）活動の充実を図っている。

継続した活動の結果，言語や文化の異なる人と協働できる児童の育成につながっている。今後は，ICT 機器の積極的な活用や専門性を高めるための研修会のさらなる充実が望まれる。

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

学校教育法等で示された内容を踏まえ、以下のとおり児童への教育上の配慮を実施した。

- ア 外国語用いて、コミュニケーションを図る楽しさを体験できるようにする。
- イ 外国語の音声やリズムなどに慣れ親しむとともに、日本語との違いを知り、言葉の面白さや豊かさに気づけるようにする。
- ウ 日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知り、多様なものの見方や考え方があることを知る。
- エ 第1, 2学年では、音楽科の鑑賞「諸外国のわらべやあそびうた」「行進曲や踊りの音楽など身体反応の快さを感じ取りやすい音楽」「諸外国に伝わる民謡など」について、英語の歌やリズムのある歌等で指導した。
- オ 第3, 4学年では、総合的な学習の時間で扱う国際理解教育は、外国語活動での世界の食文や世界の国旗紹介などに関連付けて指導した。

5. 課題の改善のための取組の方向性

- ・全児童が「言語活動科」「外国語（英語）活動」「外国語」を楽しみにできた。
- ・外国人による発音を聞いたり、映像を見たりできたことで、児童の意欲が高まった。
- ・「言語活動科」「外国語（英語）活動」「外国語」等国際理解教育の日々の実践を、保護者や地域の方々へ向けて公開する機会を設け、現状を的確に把握してもらう。
- ・外国語活動助手と担任と打ち合わせをする時間の確保。
- ・学年間の系統性を明らかにする。
- ・教材研究（指導内容にあった教材の開発）